

はせさんず

2012 春号 NO.58

ニュース

2012年4月9日(月)発行
 NPO法人たすけあい大田はせさんず
 理事長 坂口 郁子
 〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
 はせさんず(会員制) 03-5747-2610
 ヘルパーステーション 03-5747-2816
 ケアサポート 03-5747-2800
 デイホーム 03-5747-2660
 元氣かい 03-5747-2605
 FAX専用 03-5747-2620

認定NPOをとろう! 「3000円×100人」寄付キャンペーン

理事長 坂口郁子

はせさんずは、来年度の大きな目標として「認定NPO法人」をめざすことになりました。はせさんずを理解し、これまで支援してくださった方たちに応えて「認定NPO法人」の資格を得て、今まで以上に公益に資する覚悟です。

★公益性の判断基準は
 ①広く一般から指示を受けているか
 ②活動や組織運営が適正に行われているか
 ③多くの情報を公開しているか

★優遇措置で寄付が集めやすくなる
 ①個人の寄付には、寄付金控除方式(高額所得者向き)と税額控除方式(所得税から直接控除)のどちらかを選択。税額控除の例では、1万円寄付|2000円|8000円|40%|3200円が確定申告で還付されます。また、寄付金は相続税の課税対象から除外されます。

②法人には損金(法人税制上の経費)算入枠が拡大されます。はせさんずでは、今年度の賛助会員46人、一般寄付者31人、合計77人です。理事や正会員は対象外なので100人まであと23人。ただし、寄付はいつでもだれからでも受けることができます。今年度の寄付金は167万円あまりとなりました。ありがとうございます。

4月には「認定NPO法人」の仮申請をする予定です。ぜひこの際に、会員・賛助会員になってくださる方をお待ちしています。日本に寄付文化が根付くようにいたしましょう。あと一息です。

さわか福社財団・関東プロックチーム7名の一人として、石巻市雄勝町大須に入る。まずは、法要の行われる式場準備。並んだ数百ののぼりの文字は「そんでも生きでいぐ 龍澤寺」「海から力を 人には愛を 水浜地区」「一人はみんなのために みんなは一人のために 雄勝中学校」等、亡くなった方への想いとこれからの復興への力強い決意の言葉・応援メッセージであり、読むと自然と涙があふれた。

順次式場をあとにする人には炊き出しをサービス。直径1mもある大なべにあら汁とあんこ餅。「あつたかいね、おいしね」と言いながらの笑顔に、こちらが元気をもらった。

雄勝町の復興計画はこれからは十分に吸い上げての具体化が必須。地域の人々が笑顔になれるよう、これからも継続的に活動したいと思う一日だった。

大田区の被災地支援ボランティア活動の福島原発被災調査分科会と福祉分科会が合同で南相馬市の精神障害者の移送を支援する「さつと事業」を福祉・医療機構の助成金700万円を得て2台の車両でスタートし半年、現在は20人余が利用。おた市民活動推進機構におかれた事務局が申請業務、予算執行など事務的な部分を担い、南相馬のNPOと調整しながら進めています。

大田区から矢嶋を含め6名が訪問。南相馬からは5つのNPO団体が参加し現況報告や問題点を話し合いました。交

3.11 慰霊祭 in 石巻・雄勝



雄勝町の復興計画はこれからは十分に吸い上げての具体化が必須。地域の人々が笑顔になれるよう、これからも継続的に活動したいと思う一日だった。

大田区被災地支援 南相馬の移送サービス支援



大田区から矢嶋を含め6名が訪問。南相馬からは5つのNPO団体が参加し現況報告や問題点を話し合いました。交



邦楽アカデミーの発表会にて

利用者への声ー磯由利「母の介護とヘルパーとしての苦悩」

一人暮らしの母が認知症を発症した時、私自身がヘルパーでありながらどうしていいのか途方に暮れてしまいました。よその認知症のご利用者とはそれなりに笑顔で対応できるのに、母には鬼のような形相でつい怒鳴ってばかり。叱られてばかりいた母の方もしまいに逆切れして、物が飛んでくることもあり、もう母娘の関係は最悪でした。そこで、はせさんずのケアマネジャーとコーディネーターに相談し、ヘルパーを派遣してもらうことにしました。始めの頃はヘルパーさんの訪問時に母が出かけてしまったり、居ても出なかつたりと厄介なことがありました。

あれから数年、今では母はヘルパーさんの訪問を首を長くして待っています。ヘルパーさんと母の関係も良好で、ヘルパーさんが来る日は私も安心していられます。母の認知症も時々奇行はあるものの、不思議なほど落ち着いています。少し余裕ができた私は和太鼓を習い始め、その初舞台を元氣な母に観てもらえることもできました。

第2回 ヘルパー研修会 みんなで語ろう、介護サービスの基本

2月25日(土)、池上会館でヘルパー研修会を開催。

「みんなが語ろう、介護サービスの基本」と題して身近な事例について皆で話し合い、ヘルパーハンドブックを参照しながら改めて基本を再確認しました。

まずサービス提供責任者が☆毎日の記録は客観的な表現にし、「今日は〜で大変でした」などとヘルパー自身の感想を書かないこと、☆インフルエンザになった利用者のケアをする場合などの感染予防について、☆さらに介護に携わる職業人としてリスクに対する心構えが必要であることなどを説明。

次にベテランヘルパーから

移送サービス活動日記

高木清彦

本格的に活動を始めて、既に9か月が過ぎました。きっかけは、数年前、友人からあるNPOに所属して東京郊外で移送活動なることをしていいと聞いたことでした。長女に障がいがあり多くの方に助けていただいていたことから、定年後には今度は自分が人様のお役に立つことをしたいとの強い思いがありましたので、迷うことなくこの移送活動をするに決めました。ところが自宅付近ではこの活動を行っていないNPOがなく、いろいろ探した結果「はせさんず」に辿り着いた次第です。

入浴介助の初心者に向けて、日頃の工夫や

対処法などを紹介してもらいました。4月より施行される介護保険改正では介護と医療の連携が強化されますが、「たん吸引」等の医療行為の習得に進むその前に、あえて初心に帰る貴重な時間となりました。



31人の職員・ヘルパーが実体験を語り合いました

実際に活動してみると、これまでの生活とは内容も時間の割り振りも全く異なるわけですから、とても新鮮な毎日です。また、健康でいられる自分があったりまえて思っていないが、決してそうではないと改めて気づかされました。さらに、運転についても一段と丁寧になりました。人様のお役に立ちたいと思いがちですが、自分で始めたいと思いがちですが、自分にとっても有益なことが多々ある活動です。



移送活動に使用する車

はせさんず市民後見人養成講座 終了式

23年度の市民後見人養成講座が終わり、3月18日(日)事務所1階で終了式を行いました。理事長から18人の受講生に修了証が授与されました。

式後、佐藤事務局長が、同時期に同講座を実施した2つのNPO法人の視察状況を紹介しました。そのあと矢嶋が4月以降に実施されるフォーアアップ講座の内容とスケジュールについて案内し、養成講座に続き、24年度に4回の実務的な講座で勉強していくことを説明しました。



市民後見人養成講座終了式の様子

矢口特別支援学校 第3回情報交換会

3月5日(月)、移動支援

サービスマスターや学童保育の事業者との懇談会が、例年どおり学校からの呼びかけで行われました。はせさんずを含めて6事業所が参加。懇談会に先立って、小学校の授業を見学し、私たちの前ではじつとしていない利用者が真剣な面持ちで先生の言葉に耳を傾けているのが印象的でした。事業所スタッフの確保や育成、個別支援会議の現状、防災対策などについて意見交換。学校の行事に参加したり、地域で協力し連携したい、こうと話し合いました。

市民後見人養成講座 3団体で連携講座

東京都地域支え合い体制づくり事業の補助金により、実施した市民後見人養成講座は、はせさんずのほか、2月28日に、NPO法人メディアカルケア協会(江東区)、3月17日にNPO法人地域ケアネットワークゆいまあ(東久留米市)でそれぞれ終了式を開催。成年後見制度の基礎を理解した市民が巣立った。

これからは単なる知識で終わることなく、自分の家族、市民のためのようき相談相手となるよう実務的な勉強を続けていくことが期待されます。



ゆいまあ一らの研修風景



メディアカルケア協会の研修風景

事務局だより

はせさんずヘルパーステーションは、大田区より訪問介護事業所として介護サービスの質の向上に寄与したとの功績で表彰を受けました。



通常総会のお知らせ

日時 13時5分〜15時27分(日)
場所 はせさんず事務所1階

はせさんず各部門スタッフより 聞いて! 聴いて!

会員制たすけあい活動
事務局にはときどき、区広報紙で、はせさんずを知ったと聞いて問い合わせが入ります。「今日病院に行きたいので車椅子を使える自動車を手配してほしい」と。はせさんず有償運送活動は会員同士のたすけあいなので、まず担当者と面談をすることが必要です。初めての急な依頼に応えることができないのですが、せっかくのご縁ですし今後の利用もお考えでしたら、会員になるといいですね、とお話しています。(青木賢一)

ヘルパーステーション
利用者宅を訪問しサービスをするなかでヘルパーとしていろいろ学び、感動することが多くあり、楽しい毎日です。サービスが始まり、最初は慣れずにドアを開けてもらえず、対応に苦慮したものです。何回も訪問するうちに、「はせさんずの〇〇です。おはようございます!」と挨拶をするだけで「ああ、そうか」とニコニコ笑顔で開けてくださるようになりました。日々の積み重ねの大切さを知らされました。(田中千秋)

ケアサポート
肌寒さのなかにも春を感じるこの頃。介護保険の改正が4月から施行されました。いつも利用者本位のサービスを、安心して自宅で生活できる内容と願っていますが、今回の改正で気になるのは生活に密着する訪問介護サービスの時間短縮です。残念ですが、変更された内容を検討し、皆様とともに利用しやすいサービスを工夫していきます。改正に関する質問も受けます。どうぞ私たちを利用してください。(三浦久美子)

デイホーム
毎日午後は歩行訓練の一貫として、ほとんどの利用者とスタッフで外出をします。梅花を観て季節を感じ、浜辺公園で潮風に吹かれ高い展望台からの美しい景色に感動し、昔の懐かしい道具を見てその時代にタイムスリップ、書道展や華道展など、まだまだたくさんありますが、楽しみながら自然に身体を動かすことができ、利用者は大変喜んで参加しています。これからもいろいろ工夫したいと思います。(小澤陽代)

元氣かい
元氣かいでは月2回太極拳のあと、昼食会・絵手紙教室またはフリートーク・定例会を実施。ほかに月に1回歌の集い、毎週1回健康麻雀教室、10年続けたパソコン教室は終了したが新たに英国に10年滞在の講師とともに楽しい英語サークルを月に2回開催し1年たつ。四季折々に見学会・コンサートも開催。人とのふれあいと生きがいをモットーとし高齢者の介護予防が形骸化しないように自戒している昨今です。(中谷三郎)